長浜市防災新聞

平成23年
8月発行
vol. 6

長浜市消防団 結団式開催

平成二三年四月一日に長浜市内の七つの消防団が統合し、一つの消防団となりました。これにより、定員数二千人を超える「長浜市消防団」となり、これまでの地域に密着した活動に加え、一元化した指揮の下に連帯性のある迅速な消防団活動を広域的に展開することが可能となりました。

去る五月一四日（土）長浜市田村町長浜ドームにおいて消防団員参加一四〇〇名、車両二三台が集結し長浜市消防団結団式が開催されました。来賓の皆様のご出席の中、伊藤団長が自らの地域は自らで守るという郷土愛の精神を基に団員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、有事即応の体制と強固な団結力を持って積極果敢な消防活動を行い市民の皆様の安心と安全を守るという力強い結団宣言をし、長浜市の発展と市民の安全、安心な生活を確保するため、さらなる発展に寄与する事を誓いました。

名称：長浜市消防団
定員数：一六〇一四人
方面隊数：一〇方面隊
長浜西方面隊
長浜東方面隊
浅井方面隊
びわ方面隊
虎姫方面隊
湖北方面隊
高月方面隊
木之本方面隊
余呉方面隊
西浅井方面隊
分団数：三二分団
第一分団～第三二分団

分列行進（方面隊別）

オープニングは私立チャイルドハウス卒園児の皆さんによる演奏で始まりました

式辞（市長）

消防車両パレード

長浜市防災推進員会議開催

六月二五日（土）午前十時から、びわ文化学習センター（サュートプラザ）において平成二三年度第一回防災推進員会議を開催いたしました。各自治会の会長、防災推進員の皆様には自主防災組織のリーダーとして参加をいただきました。

今回は今年三月に発生した東日本大震災で滋賀県消防緊急援助隊として福島県で援助活動をされた湖北地域消防本部の赤井様に「東日本大震災においての活動と今後」と題し、現場活動報告、県の防災ヘリから見た災害状況を映像で見させていただきました。その後、阪神淡路大震災の例もまじえながら「自助」「共助」について講演していただきました。

今後、地域防災活動の必要を認識していただくとともに、市民一人ひとりが参加出来る訓練体制を作り、地域防災力の向上に努め「災害に強い長浜市」作りに取組んでいかなければいけないということを強く感じました。

当日は、約二〇〇名の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

長浜市総合防災訓練の実施について

★１０月１６日（日）午前中に開催します。場所は、メイン会場として、湖北町山本の山本山運動広場で、避難訓練、応急救護訓練を実施いたします。

★当日は地震発生想定時間直後から、全市民・全自治会を対象として各地域またはメイン会場で防災訓練を実施していただきますようご協力をお願いします。

湖北地域消防本部 平成二三年上半期 火災統計より

平成二三年度上半期の火災件数は三四件で、前年同期に比べ七件の減少となりました。しかしながら、昨年同期には発生のなかった焼死者が五人発生し、さらに負傷者数も八人増加の一三人となりました。

火災種別ごとに見ると建物火災が一八件と最も多く、全体の五三％を占め、次いで、その他の火災が一二件で前年同期に比べ一件の増加、車両火災が三件で四件の減少となりました。焼損棟数では、全焼が一二棟で前年同期の三棟から九棟の増加となりました。出火原因は、放火・放火の疑いが合せて四件、ストーブ・たき火がそれぞれ三件、たばこが二件でした。

住宅用火災警報器義務化

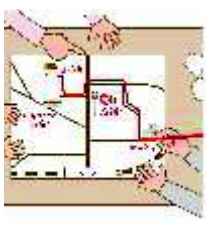
平成二三年六月一日より全ての市町村において、既存住宅への住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。住宅用火災警報器とは、火災によって発生する煙や熱を自動的に感知し、音や光により、火災の発生を早期に知らせるものです。あなた自身はもちろんのこと、大切な家族の命と財産を火災から守るためのものです。また火災を早期に発見することで、初期消火や通報などの行動が早まり、近隣への延焼被害も軽減できます。今一度、家の中を確認して下さい。

DIG訓練の実施

DIG（ディグ）は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Gameゲーム）の頭文字を取って命名されました。DIGという単語は「掘る」という意味を持つ英語の動詞でもあり、転じて、探求する、理解するといった意味をもっています。このことから、DIGという言葉には「災害を理解する」「まちを探求する」「防災意識を掘り起こす」という意味も込められています。

DIGでは、参加者が大きな地図を囲み、みんなで書き込みを加えながら、ワイワイと楽しく議論をしていきます。その中で参加者は、参加者と家族が住む地域に起こるかもしれない災害を、より具体的なものとしてとらえることができ、また、ゲーム感覚で災害時の対応を考えることもできます。

DIGには決まったルールはありません。参加者の立場や関心によってさまざまな形、やり方があります。ぜひ皆さんで一度体験してみてください。まちを見る眼、災害を考える眼が変わると思います。



原子力安全対策室設置

市では、東日本大震災にともなう福島第一原子力発電所の事故を受けて、総務部防災危機管理課内に「原子力安全対策室」を設置し（五月二六日付）、今後、原子力防災と安全対策の強化を図っていきます。

今回の原子力発電所の事故では、広範囲の周辺住民に避難指示が出されました。このような経緯から、国では防災指針の見直しを行うとされていますが、その決定までには相当時間を要することが予想されます。そのような中、県では、地域防災計画（原子力対策編）の見直しが行われることになり、見直しにかかる検討委員会が設置され、市からも委員として参画しています。

市においては、原子力に対する安全対策を図るため、原子力災害に関する計画の策定を予定しており、今後、県とも連携を図りながら進めていきます。

編集後記

今、全国各地で地震が多発しており、地震活動期に入ったともいわれています。地震はいつ起こるかわかりません。今一度、自分自身またはご家庭で出来る地震対策について考えてみて下さい。

また、暑い日が続きますが熱中症対策に充分注意し、体に気をつけてお過ごし下さい。